

八ヶ岳山麓の縄文文化

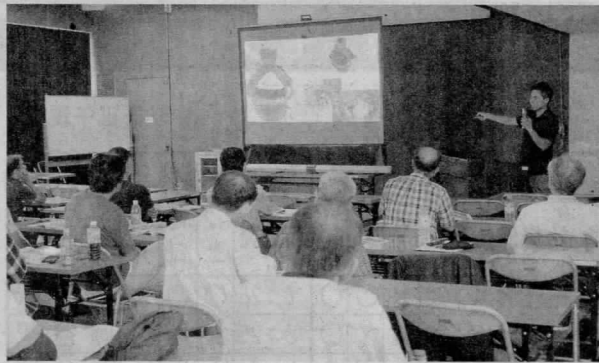
諏訪地区遺跡調査研究発表会

近年の発掘調査結果説明

諏訪考古学研究会は11日、第28回諏訪地区遺跡調査研究発表会を諏訪市文化センターで開いた。「山麓の縄文文化」をテーマに、八ヶ岳山麓の3市町村にある遺跡各1カ所について、各市町村の教育委員会の担当職員が近年の発掘調査の結果を説明した。

最新の研究成果を報告する場として設けている発表会。発掘調査の様子や遺構、出土した土器などの写真をスライドで映しながら行われ、会員や考古学ファンら約40人が熱心に聞き入った。

茅野市教委の小池岳史さんは尖石遺跡について、2022年度に国特別史跡範囲の西側で行った保存目的のための確認調査で、縄文時代中期の新道式期の竪穴住居址を発見したと解説。住居は出ないのではという予想に反して見つ



八ヶ岳山麓にある縄文遺跡の近年の発掘調査について成果が報告された発表会

原村教委の佐々木潤さんは大横道上・ワナバ遺跡に關し、21年度の発掘調査で小竪穴87基などが発見されたことなどを報告。富士見町教委の副島蔵人さんは曾利遺跡について、22年度と23年度の調査で竪穴住居址が計14軒見つかったほか、「面白い遺物が出てきた」として竹筒形有孔鏝付土器と人面香炉形土器が出土したことを紹介した。

同研究会はしばらく休会状態にあったが、昨年から活動を再開。発表会を主要事業の一つとして継続していく方針という。
(手塚洋一)